

## さわやか入間の風

令和6年

3月発行

発行者 西澤 泰男



## スローガン

『会員一人一人の居場所づくりのお手伝いをする』退職校長会

会長 西澤 泰男

4月12日(金)の総会により令和6年度の事業が始まります。現役員一同、皆様のご意見を大切に、地区や県退職校長会等と同一歩調でしっかりと運営してまいります。

初めに去る1月1日の能登半島地震では、多くの尊い命が失われ、心から哀悼の意を表します。そして被災されました全ての皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早く日常生活を取り戻し、被災地が復興されますことをご祈念申し上げます。

かつて輪島市の学校を訪れた時の記憶が蘇ってまいりました。学校と地域が連携して、子供たちにしっかりと将来の夢を抱かせよう。また、一人一人が家族や地域の人から必要とされているという、自己有用感を持たせよう。このような、地域の特性を生かした手作りの教育を実践されていました。その熱意が、輪島市、そして石川県の学力を全国の上位に押し上げてきたといえます。現在被災地の中学生が集団避難して学んでいる姿を見るに、何があっても教育を止めない、子供は地域の宝である、という強い信念・意思が伝わってまいります。私たちは今後も何らかの復興のお手伝いをするとともに、北陸に暮らす人々の心意気を、しっかりと受け容れていきたいと考えます。

〔活動の情報等〕

◎授業参観の実施・・・2月21日(水)豊岡小学校で開催。

会員研修の一環として、授業参観と給食試食会を実施しました。受け入れていただきました教育委員会及び菱校長先生に感謝申し上げます。

ギガスクール構想、ICTの現状を知るとともに、子供や教育現場の支援に役立てていきます。

子供たちはとても生き生きと活動していました。



5年 算数 「正多角形の作図」

◎埼玉県退職校長会HP・・・スマホからアクセスできます。

入間市班はもとより県内全ての班の取り組みを知ることができます。コロナ感染5類移行後の新たな取り組みも始まりました。個人情報保護と情報の積極的公開の狭間で、各班とも工夫しています。HPに載せたい記事やアイデアをお寄せください。

〔斎藤 茂太氏の名言から〕『人生に失敗がないと、人生を失敗する』

人は年齢を重ねるごとに失敗を恐れ、行動を制限しがちです。しかし失敗することでしか学べないこともあります。これからも、挑戦する自分でありたいものです。

彼は歌人、茂吉氏の長男で、医者であり随筆家です。実弟には作家の北杜夫氏がおります。また息子の章二さんも医者の傍ら、飛行機マニアとしてあのブルーインパルスの機体塗装のデザインもされており、入間市との縁も感じます。

会員と共に歩む入間市退職校長会、気持ち新たに全力を尽くしますので、よろしくお願いいたします。

## 会員のページ

今回も 内藤 定芳先生にお願いし、ご寄稿いただきました。

昨年暮れの懇親忘年会の席で会報誌『さわやか入間の風』の「会員のページ」についてお話をしたところ「良いですよ。いつでも言ってください。」と気さくな返事をいただきました。編集責任者としてこれ程うれしくなる言葉はありません。

内藤先生 ありがとうございます。

### 26年前の入間市校長会台湾旅行を思い出しました

内藤 定芳

先月12月7日から9日まで、石垣島を旅してきました。行ってみて初めて実感したのは、東京から石垣まで約2000キロ、石垣島から台湾まで270キロ程度のような感じです。懐かしい花蓮(ファーレン)は目と鼻の先です。今回の目的は石灰岩とチャートの探索に尽きます。

格安航空のPeachを使ったため、前日は成田市のホテルに泊まりました。午前7時半のフライトです。6時に食事をし、7時前には空港に入りました。

11時過ぎに予約していたレンタカーを借りて、ひたすら石垣島西部の琉球観音崎の灯台を目指します。なぜ観音崎かという、石垣島の地質の論文を書いた学者がいて、石垣島の西部には沖縄本島北部にある「本部層」に相当する地層があるというのです。灯台近くは通常岩石の露頭があって、案の定ネットでは多くの「層状チャート」の写真がアップされています。何とかこの端切れを拾えないかというわけです。

それが何なの?と言われるかもしれません。早い話が、秩父の荒川や高麗川、多摩川では普通に見られる「チャート」や、古生代・中生代の石灰岩の層が、沖縄まで続いているらしいということなのです。世界的に有名な「秩父帯」です。チャートは今期の学習指導要領の中一で指導することになった岩石です。硬度が7というとすぐ水晶を思いつく方は玄人並み。昔 火打ち石に使った硬い石だということ、成る程と納得いただけるでしょう。同じ石です。ハンマーでたたくと火花が散ります。火打ち石だから当たり前ですよ。

観音崎をカーナビに入れても検索が出来ません。後で解ったことですが、観音崎は全国に幾らもあって、ここでは「石垣島観音崎」でも出ません。「琉球観音崎」でした。

夕方までは空いていそうな施設を目指します。石垣島天文台、その手前に石垣島鍾乳洞があります。鍾乳洞の手前まで行くと、道端に一つのガケがありました。何となく胸騒ぎがして車を止めると、見覚えのある白い岩石が転がっていました。空洞が見える石灰岩、琉球石灰岩でした。サンゴの模様が幾つも入っています。これで今回の旅行は半分ほど達成したことになります。

閉館までに天文台も見学することが出来ました。105cmの反射望遠鏡は、陸別と同じだな、などと余計な事を考えます。石垣島は東経が124°なので、秩父より日没が1時間程遅くなります。まだ明るいうちに灯台に着きました。灯台下の岸壁に層状チャートの地層が見られます。かけらを拾って持参したハンマーで角をたたいてみると、秩父のチャートより火花の出方が少ないような気がします。幾分か柔らかそうですが、これ以上は埼玉県では追求が難しい状況です。フッ酸処理と電子顕微鏡が必要です。

琉球諸島は、奄美群島、沖縄諸島、宮古列島、八重山列島の総体ということになったようですが、大きく時計回りに曲がった先は台湾です。台北の南東には、石灰岩の地層が広がっていて、秩父帯が繋がっているようにも見えるのですが拡大しすぎでしょうか。

平成10年新任校長として藤沢南小学校に赴任し、運良く校長会の台湾旅行に参加することが出来ました。列車で大理石の大産地花蓮を旅しました。大理石は石灰岩が変成岩化したものです。トンネルや赤壁の下をバスが高速で走ります。太魯閣(たろこ)渓谷は今でも鮮烈です。

高砂族との楽しい夕餉。故黒田馨先生がはしゃいでいた様子を思い出します。



石垣島鍾乳洞 あくまで石!!